

第1回7月 東大本番レベル模試 英語採点基準

記述問題の採点は問われた内容にほぼ正しく答えているかどうかで判断することを原則とし、表記上の些細なミス（例えば、iの点やtの棒の脱落など）は減点しない。

配点表

大問	小問	配点	小問数	小計	大問ごと
1	A 要約	10	1	10	23
	B(ア) 記号	2	5	10	
	B(イ) 単語記入	3	1	3	
2	A 英作	12	1	12	22
	B 英作	10	1	10	
3	A 記号	2	5	10	30
	B 記号	2	5	10	
	C 記号	2	5	10	
4	A 記号	2	5	10	22
	B(ア) 和訳	4	1	4	
	B(イ) 和訳	4	1	4	
	B(ウ) 和訳	4	1	4	
5	(A) 並べ替え	3	1	3	23
	(B) 和訳	3	1	3	
	(C) 説明	3	1	3	
	(D)(ア) 記号	2	5	10	
	(イ) 記号	2	1	2	
	(ウ) 記号	2	1	2	
合計					120

【1】-A (10点満点)

【例1】

創作教室では修正方法や、仲間からの励みは得られる。しかし、創作に必要な創造性は教えられるものではなく、作家というのは、書くことと書物から書くことを学ぶのである。(80字)

【例2】

創作は教えられるかと問われたら、創造力は教えられないが作品を推敲する方法を教えることはできると私は答える。作家は書くことと本を読むことにより書くことを学ぶのだ。(80字)

必須項目 (10点)	<p>① 「創作を教えることはできるのか? <b>創造力</b>は教えることができない」(2点)                  Can creative writing be taught? ... <b>creativity</b> can't be transmitted from teacher to student.                  ▶ 「<b>創造力</b>」(creativity)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「<b>才能</b>」(gift)は「<b>創造力</b>」と認める。                  × 「<b>創作/創造</b>」は「<b>創造力</b>」と認めない。</p> <p>② 「私は創作を教えることに関する質問に対して創作教室は役立つと答える。良い先生は作品を<b>推敲</b>する方法を教えることができる」(2点)                  ... the answer I give people who ask about teaching creative writing: A workshop can be useful.                  A good teacher can show you how to <b>edit</b> your work.                  ▶ 「<b>推敲する</b>」(edit)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「<b>推敲する</b>」は「<b>書き直す/仕上げる/練り上げる/手を入れる/修正/編集</b>」でもよい。                  × 「<b>変える/削る</b>」は「<b>推敲する</b>」と認めない。</p> <p>③ 「たいていの作家と同様、私は<b>書くこと</b>により、そして<b>本</b>から、<b>書くことを学んだ</b>」(6点)                  Like most, maybe all, writers, I <b>learned to write</b> by <b>writing</b> and, by example, from <b>books</b>.                  ▶ 「<b>書くことを学んだ</b>」(learned to write)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  × learnedの目的語to writeが明らかでないものは不可。                  ○ 現在時制も認める。(例「実際に書いたり読んだりして書くことを学ぶ」)                  ○ 「<b>創作</b>」はto writeと認める。                  ▶ 「<b>書くことにより</b>」(by writing)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「<b>創作</b>」はwritingと認める。                  × 前の項目learned to writeのto writeの訳はこの項目のwritingと認めない。                  ▶ 「<b>本</b>から」(from books)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ from(〜から)の意識は広く認める。                  ○ 「<b>本</b>」は「<b>書物/読書/読むこと</b>」でもよい。</p>
---------------	--

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【1】-B(イ) (3点満点)

egg 以外不可。

【例1】

When things don't go as we expected, we often blame circumstances. For example, we attribute poor performance at school to our teachers, curriculums, or friends who are bad influences. However, we should make an effort to create the right environment ourselves. In terms of school performance, we can listen to our teachers carefully in class, make the best use of textbooks and other learning materials, and make friends to learn together. In that way, we can achieve our goals. (79 語)

(物事が期待したとおりにいかないとき、私たちはしばしば環境のせいにする。例えば、学校での成績が悪いのを先生や、カリキュラムや、悪影響を与える友人のせいにしたりする。しかし、私たちは自分自身で適切な環境を作り出す努力をするべきだ。学業で言えば、授業で先生の話に注意深く聞いたり、教科書などの学習教材を最大限活用したり、一緒に学ぶ友人を作ることもできる。そうすることで、私たちは目的に到達できる)

【例2】

I agree with this passage. When things go wrong, we often complain about our circumstances. Suppose you lost a soccer game on a rainy day. What would you do? If you only complained about the rain, you would not improve your soccer skills. What you should do is think and practice how to play in the rain. As the passage tells us, we should try hard to make our circumstances better so that we can achieve a good result. (79 語)

(私はこの言葉に同意する。物事がうまくいかないとき、私たちはよく環境が悪いと文句を言う。雨の日にサッカーの試合に負けたとしよう。あなたはどうするだろう？ 雨のことをただ嘆いても、サッカーの技術は向上しないだろう。あなたがすべきことは、雨の中でどのようにプレーするかを考えて実践することだ。その言葉が論じているように、私たちは良い結果を得られるように状況をより良くしようと一生懸命努力するべきだ)

【例3】

Success depends largely on circumstances. Take the example of second-language learning. Most Japanese people find it difficult to learn English inside Japan. However, if they lived in an English-speaking country for several years, they would develop a better command of English. Good circumstances definitely have positive impacts on our abilities. It's true that people with a strong will are less affected by external factors, but unfortunately, ordinary people are not talented or determined enough to ignore the effects of circumstances. (80 語)

(成功は環境に大きく左右される。第2言語の習得を例にとろう。大抵の日本人は日本国内で英語を身につけるのが難しいとわかる。しかし、もし英語圏の国に数年間住めば、もっと英語の運用力が伸びるだろう。良い環境は私たちの能力に必ず良い影響をもたらす。確かに意志が強い人は外的要因に影響されにくいだろうが、残念ながら、普通の人は環境の影響を無視できるほど、才能も意志力もないものだ)

【例4】

Indeed, it is important to try to make a situation better instead of lamenting about it, but circumstances sometimes help to shape you. In my third year of junior high school, I was chosen to be captain of the tennis club. I was confused because I was shy and poor at talking. However, with my friends' help, I gradually acquired leadership skills in my role as captain. Putting yourself in a certain situation helps you grow. (76 語)

(確かに、状況を嘆くのではなく状況を改善しようとするのは大切だが、状況が人間形成の助けとなることもある。中学3年生のとき、私はテニス部のキャプテンに選ばれた。私は恥ずかしがり屋で話すのが苦手だったので困惑した。しかし、友人の助けを借りて、キャプテンとしての役割においてリーダーシップのスキルを次第に身につけた。特定の状況に身を置くことは人の成長に役立つ)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限 (60～80 語) を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で下記に該当するものは、それぞれ該当の点数を減点。
  - 1) 解釈の問題ではなく、意図的に全く無関係な事柄を書いているようなものは **12点減点 (0点)**。
  - 2) 解釈の大きな誤りにより、極端にずれた事柄を論じているものは **6点減点**。  
(例) 人間が自然環境を破壊していることを論じているなど。

【2】 - B (2点×5=10点満点)

【例1】 In many cases, we imagine what the person looks like, judging unconsciously from how he or she uses language. The mental image is so powerful that when we see him or her face-to-face, we will have a strong feeling about whether it is right or wrong. (多くの場合、私たちは、言葉の使い方から無意識に判断して、その人がどのような外見かを想像する。その心の中のイメージはとても強力なので、実際にその人と顔を合わせると、それが正しいか間違っているかについて強く感じる)

【例2】 We often unconsciously create an image of someone's face from what is revealed through the words they use in their writing. This image is so vivid and compelling that when we see them in person, it will be clear to us if our expected image is correct or not. (私たちはしばしば、他の人が書くときに使う言葉を通して明らかになるものから、無意識に顔のイメージを作る。このイメージはとても鮮やかで説得力があるので、じかに会ったとき、予期したイメージが正しいか否かがはっきりわかるのだ)

【例3】 Usually, we imagine people's faces through their attitudes expressed in language without realizing it. These images are such strong ones that when we meet the people for the first time, we can see immediately whether their faces are exactly what we expected or not. (通常、私たちは知らず知らず、言語に表れる態度を通じて人々の顔を想像する。こうしたイメージはとても強いものなので、その人たちに初めて会ったときに、私たちは彼らの顔が予期したものとまったく同じかそうでないかが瞬時にわかるのだ)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 次の①～⑤の区分を目安に得点(各2点)を配分する。

- |   |                       |                        |
|---|-----------------------|------------------------|
| ① | 多くの場合には言語に表現せられた相手の態度 |                        |
| ② |                       | から、無意識的に相手の顔が想像せられている。 |
| ③ | それは                   | 力強いものである。              |
| ④ | 直接逢あった時に              | はっきり感じさせるほどの           |
| ⑤ |                       | 予期との合不合を               |

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>

In many cases, it is not the disability that causes the isolation, but the physical barriers or the hurtful treatment of others.

<例 1>

多くの場合、孤立感を引き起こしているのは、障害があることではなく、物理的障壁や、人の心を傷つけるような他者からの扱いである。

<例 2>

多くの場合、この孤立感を生み出しているのは、身体の障害ではなく、物理的な障壁もしくは他者による感情を傷つけるような態度である。

区分	配点	具体事例
In many cases, it is not the disability that causes the isolation 多くの場合、孤立を引き起こすのは障害ではない	2点	×it is ~ that が強調構文がわかっていないものはこの区分0点（-2点）。 ×In many cases の訳抜けは不可（-1点）。
but ~ （～ではなく）～である	1点	×not A but B の構文がわかっていないものは不可。
the physical barriers or the hurtful treatment of others 物理的障壁あるいは他の人々の傷つけるような扱い	1点	×physical は「肉体的／身体的」は不可。 ×of others を the physical barriers と the hurtful treatment の両方に掛けているものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B (イ) (4点満点)

<問題部分>

While often stemming from a harmless curiosity, these stares can contribute to the isolation that a child and his or her family may feel.

<例 1>

こうした凝視は、多くの場合、悪意のない好奇心から生じるものであるが、子供やその家族に孤立感を感じさせる要因となり得る。

<例 2>

このように見つめることは悪気のない好奇心によるものである場合が多いが、子供やその家族が感じる孤立感の一因となることもある。

区分	配点	具体事例
While often stemming from a harmless curiosity 無害な好奇心から発生することも多いが	2点	×while を時の接続詞(「～の間」など)ととっているものは不可。 ×often の訳抜けは不可。 ×curiosity に「奇妙/変なところ」は不可。
these stares can contribute to the isolation このような凝視は孤立の原因となりうる	1点	×these の訳抜けは不可。 ×contribute to ～ に「～に貢献する」は不可。
that a child and his or her family may feel 子供やその家族が感じるであろう[孤立]	1点	×that が the isolation を先行詞とする目的格関係代名詞だとわかっていないものは不可。 ×may に「～してもよい」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分>下線部(ウ)を訳す際には，“this” が何を指しているのかを明らかにせよ。

teachable moments like this are being missed every day, for fear of offending

<例1>

障害のある人を初めて見た子供から「どこが悪いの？」と質問されたようなときは、子供を教育する良い機会であるのに、相手を傷つけてはいけないという思いが先に立って、せっかくの機会が毎日のように失われてしまっている。

<例2>

子供が初めて障害を持つ人を見て、「どこが悪いの？」と尋ねるような場合は教えるのに最適な瞬間だが、相手の感情を害することを恐れるあまり、その最適な瞬間が日々見逃されている。

区分	配点	具体事例
teachable moments 教えることが可能な瞬間が	1点	×teachable の訳抜けは不可。
like this 子供が初めて障害を持つ人を見て「どこが悪いの？」と尋ねる瞬間のような	1点	×like を前置詞ととっていないものは不可。 ×this の内容 (that moment when our children first see a person living with a disability and ask, “What's wrong?”) を明らかにしていないものは不可〔設問条件〕。
are being missed every day 毎日見逃されている	1点	×受動態の現在進行形だとわかっていないものは不可。 ×every day の訳抜けは不可。
for fear of offending 感情を害することを恐れて	1点	×offend に「攻撃する」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(A) (3点満点)

were trying to convince us both of something 以外不可。綴りの誤りは不可。

【5】－(B) (3点満点)

<問題>

下線部 (B) を和訳せよ。

I hoped my back looked brave.

<例1>

自分の後ろ姿が心細く見えないようにと願った。

<例2>

私の背中が勇敢に見えることを望んだ。

区分	配点	具体事例
I hoped [that] ~ 私は～[こと]を望んだ	1点	×時制が過去だとわかっていないものは不可。
my back looked brave 私の背中が勇敢に見える	2点	○「自分の背中が気丈に見える (ことを願った)」「後ろ姿が悲しそうに見えなければ (いいと思った)」など。 ×looked brave に「勇敢に見た」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳, 訳漏れ, 英語のまま, 不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(C) (3点満点)

<問題>

下線部 (C) の内容を, They が何を指すかわかるように説明せよ。

They animated his face before he spoke.

<解答例>

質問を発しようとするたびに, 彼の顔は生き生きと輝いた。

<別解例>

チャーリーは聞きたくてたまらないという表情をして, 質問をしたということ。

次の (1) (2) が必須項目。

- (1) They animated his face に相当するもの (これがないものは **2点減点**)  
×They を questions 以外ととっているものは不可。  
○「質問が彼の顔を生き生きさせた」に相当する内容を認める。
- (2) before he spoke に相当するもの (これがないものは **1点減点**)  
○「話す前から/話すたびに」という意味に近ければすべて認める。  
×he を Charlie 以外ととっているものは不可。